

コロナ禍を乗り越えて定期演奏会を実現 関東学院中学校高等学校オーケストラ部

今年4月17日、関東学院中学校高等学校校オーケストラ部による「第14回定期演奏会」が川崎市のミュージザ川崎シンフォニーホールにて開催され、これが引退公演となる高校3年生を中心に素晴らしい演奏を披露しました。コロナ禍で練習や活動が思うように行えなかった1年間、この日を迎えるまでには生徒達の様々な葛藤や努力、指導する先生方を始めとする多くのサポートがありました。そこで前部長の坂口智哉さん(高3)と、今年度部長を務める畠山慧士さん(高2)に当時の状況やオーケストラ部の活動についてうかがいました。

先が見えない状況での活動

関東学院中学校高等学校校オーケストラ部は、7人の中学生による「アンサンブル同好会」として2005年に発足。翌年「オーケストラ部」に改称し、部活動へ昇格しました。顧問を務める繁下拓也先生の指導の下、現在は校内最多130名以上の部員が所属し、中高合同で活動しています。校内行事以外に、地域の小学校や福祉施設等での演奏など多岐に渡る活動を行っています。昨年はコロナ禍により、全国の学校で部活動の休止や対外活動の中止を余儀なくさ

きなかった。定期演奏会だけはなんとか成功させたいとの思いで、僕達高2は頑張ってきました。意見の違いで喧嘩になることもありましたが、それだけ皆が本気で考えてくれたし、困っている時は助けてくれた本当にいい仲間達です」(坂口さん)

開催を信じて準備を進めた部員達。毎年製作するTシャツは、指揮者である繁下先生をモチーフにしました。3月の演奏会直前強化合宿は宿泊を断念し、三浦市のホールを借りて4日間バスで移動して練習することに。感染状況が落ち着かず、人数配置の問題による曲目変更など、最後まで予定通りには進みませんでしたが、多くの方々に支えられてきたと坂口さんはいいます。

「繁下先生もホールの予約など今回は本当に大変だったと思います。合宿をなんとか実現させようと遠くまで施設を見に行ってきたさつたり感謝しかありません」



前部長の坂口智哉さん(高3)と現部長の畠山慧士さん(高2)
Tシャツは定期演奏会でポップス演奏時に着用したもの

れました。オーケストラ部も昨年4月の定期演奏会はオンライン開催となり、その後も休校や分散登校により練習もままならない状態でした。当時高校2年生で部長を務めていた坂口さんは、その時の心境を「墨汁のプールに落とされたみたい」といいます。

「本当に何も見えない、何をすればいいんだろうという気持ちでした。自分の後ろには大勢の後輩達がいる、それを先導しなくちゃいけないというプレッシャーもありました」

自分ではどうにもならない状況の中で、坂口さんはオンラインでの情報発信に取り組みむことにしました。

「部内向けと部外向けに皆で動画を作成しました。部外向けは主に新入生を対象に部活動を紹介し、部内向けは部員達のモチベーションを高めることが目的です」

分散登校期間には、繁下先生の提案でビデオ会議ツール「グーグルミート」を使ったミーティングや、オンラインでのパート練習も試みました。7月頃には時間や人数を限定して校内で練習を再開。練習拠点である講義室には、飛沫防止の亚克力板やカーテンを設置するなど感染対策を施しました。従来のような練習ができないうちで、新たな気づきもあつたと畠山さんはいいます。

「礼拝堂で合同練習をする時、感染予防で



定期演奏会の様子。曲目はドヴォルザーク作曲交響曲第9番「新世界より」他

感謝の思いを伝えた演奏会

迎えた演奏会当日。会場では保護者が検温を手伝ってくださり、観客は両隣を空席にするなど感染対策を徹底しました。学年別や様々な編成による演奏、衣装やダンスも楽しいポップスナンバー等につき、3時間に及ぶプログラムの最後を飾ったのはドヴォルザーク作曲交響曲第9番「新世界より」です。「このためだけに1年間頑張ってきました。最後に交響曲が終わった後、引退生は一人ずつ先生に名前を呼ばれ、壇上に並んで部長がスピーチをするのですが、その時に見た景色は最高でした。自分達だけではこまめで足りなかったですし、とにかく皆さんに感謝を伝えたかった。5年間は本当に特別だったと今は心から思っています」(坂口さん)

間隔を空けるために、舞台上だけでなく下のフロアにまで広がって演奏したのですが、距離が離れるので音が合わせづらかったです。ただ、今まで音を聴いて合わせようという甘えた部分があつたのが、指揮を見て合わせないといけなくなつたことで、逆に演奏の質を上げることができたのかなと思います」

開催を信じて進めた準備

練習は再開したものの、先行きが見えない状態は続きました。相次ぐ行事の中止や、毎年出場している「全国高等学校選抜オーケストラフェスタ」も収録によるオンライン開催となりました。

「オープンキャンパスでの演奏も、かんらんさい文化祭も



指揮を務めるのは顧問の繁下拓也先生

これからのオーケストラ部

オーケストラ部は入部者のほとんどが初心者です。今年度は総勢137名で活動しています。今後の状況にもよりますが、演奏の機会が徐々に増え、昨年は中止となつた9月のかんらんさいでも演奏予定です(8月現在)。畠山さんは今、部長としての辛さを味わっているのだそうです。

「百人規模の後輩達をまとめていくには、僕達の学年が運営をきちんと行つて、全員のモチベーションを作り出さないと付いてきてもらえません。それを疎かにすると先生からは厳しく指導されますね。皆で協力して頑張っていきたいです」

今年度選んだ曲は「チャイコフスキー作曲交響曲第5番」。来年4月30日にはミュージザ川崎シンフォニーホールで「第15回記念演奏会」を開催予定です。これからのオーケストラ部の活動にご注目ください。

